

コスト・ラムロ ^{कोस्तो राम्रो} (すばらしい)

コスト・ラムロ 第5号

2000年7月29日発行

徳島ネパール友好協会

巻頭言

徳島ネパール友好協会 会長 中瀬敬之

1996年2月徳島ネパール友好協会が設立されて、ネパール国ラムジュン地区ブジュン村に極小水力発電所を建設するための援助活動が正式に発足しました。あれからもう4年半、1999年12月3日のネパール国第2皇太子ご臨席の発電所前での完成式からでも早8ヶ月、月日の過ぎるのは非常に早く感じられる。

ヒマラヤ!ヒマラヤ!かつて40年前は、山にあこがれた男が一度は夢見た憧れの地。当時は、ほんの一握りの山男のみしかヒマラヤの地を踏めなかった。しかし最近、もう世界の観光地に飽き、かつ山に少しは興味のある先進国の人たちが、非常に簡単にネパールに入国し、約1週間のヒマラヤ・トレッキングを楽しんでいる。

しかし我々が地球温暖化・地球環境保全や開発途上国援助を議論しているとき、ヒマラヤの麓の村人には電気がなかった。現在でも、まだ電気のない村はたくさん残っている。村の人口は増え、田畑は広げざるを得ず、炊事・暖房に使用する薪のために多くの森林が伐採されている。国連開発計画によれば、「ヒマラヤ地区の森林が減少している。ネパールは世界で唯一女性の平均寿命が男性より短い国である。」ことが明らかにされている。

我々日本の中でも小さな県のNGOグループが、KMTNCとともに80kwの発電所を建設し、なんとか電気の無いヒマラヤの麓の村に灯をともした。このことにより、年間約1,200トンの木材資源が節約され、これまで木材伐採に要した労働力が削減されるだろう。特に女性や子供達が薪運びや囲炉裏作業から解放され、健康・教育環境も大幅に改善されることが期待されます。私は、電灯の下で一所懸命に勉強している少年少女達の姿が目につかびます。個人的には、私は、「国際援助とは物質的ではなく、子供達の教育に関する援助」が非常に重要だと思います。これは私の方針です。

我々は長年待ち望んだこの新しい水力発電所をようやく完成させました。しかし、我々は今後この発電所を維持して行かねばなりません。これは、開発途上国援助では非常に重要なことではありますが、我々にとっては困難なことでもあります。しかし、やらねばならないことです。これが心のこもった真の援助であると思います。

今回の水力発電所建設で、多くのネパールの方々とお会いして意見を交換することは、非常に幸せなことでありました。お互いの国際理解を深めながら、大いに成長し、発展していくことを期待しています。そして”ヒマラヤに灯を燈す”ことが、今後の両国の友好と平和への架け橋となることを希望いたします。

最後になりましたが、会員の皆様、また、ご援助を賜りました多くの方々、また、多くの会社に深く感謝いたします。ありがとうございました。

ブジュン水力発電所完成式典・祝賀会

ネパールにおける森林破壊をくい止めるひとつの方法として、当協会ではブジュン村への小型水力発電所を援助しようと推進して参りましたが、ついに、念願の”友好の灯”は、平成11年12月3日、



現地に灯り、この日は「徳島の日」と命名されました。

このブジュン発電所完成の日の模様は徳島新聞に大きく報道され、県民の皆様方の善意は、国境を越えたボランティア精神として各方面から賞賛されることとなりました。

当協会では、この喜びを徳島のこの計画に温かい義援金をお寄せいただいた皆様方と分かち合うべく、在日ネパール大使をはじめ現地ネパール・ブジュン村水力発電所建設でお世話になった方々（別記）をお招きして、徳島での完成記念式典・祝賀会を平成12年3月12日、徳島パークホテルにおいて開催し、発電所の完成をお祝いし、今後一層の交流を誓い合い両国の友好親善を更に深めることができました。

記念式典ではまず、中瀬会長が「念願の水力発電所がようやく完成し、今後は力を合わせて発電所を維持していくことが重要で、お互いに国際理解を深めながら成長し、発展していくことを期待している」とあいさつ、次に、天野理事長がこれまでの経過を報告し、長尾副理事長がスライドを使って発電所工事の概要について紹介しました。これらの内容は、ネパール訪問100回という宝塚ネパール友好協会理事長倉内司郎氏（当協会コーディネーター）により、ユーモアを交えつつ通訳され、日本側の参加者はもちろん、ネパール側の参加者にも十分に理解されたことと思います。

村の長老で、ブジュン村電化委員会代表のグルン氏は、「徳島の方々の温かい気持ちや優しさを感じ、村民一同大変うれしく思っています。これからもいろいろな面での交流を深めていくことを望んでいる。」とあいさつされ、この言葉には、特に感銘を受け印象に残りました。

祝賀会では、お互いに杯を上げ、「ナマスティ・・・」「ありがとう・・・」を繰り返して、記念写真を撮ったり、なごやかな歓談が続きました。終宴には「阿波踊り」を皆で楽しみ、喜びを分かち合えたことと思います。なお、この「阿波踊り」は、徳島有名連で

全国的に名を知られている四宮生重郎様（のり万社長）のご好意によるもので、感謝申し上げてお



ります。翌3月13日には来徳のネパール関係者と当協会中瀬会長外数名が同行して、徳島県庁、徳島市役所、日亜化学、徳島新聞社

四国放送その他を表敬訪問いたしました。県庁では、圓藤知事を訪問した日ネパール特命全権大使マテマ閣下は、「発電所の建設で生まれた草の根レベルの友好関係を大切にしたい。」とあいさつ、これに対し知事は「行政レベルでも友好を深めていきたい。」と返答、その後歓談やプレゼント交換も行い、友好を深める表敬訪問でした。

（古林 千之）

プログラム

完成式典

会長あいさつ	徳島ネパール友好協会 会長	中瀬 敬之
経過報告	徳島ネパール友好協会 理事長	天野 親聡
発電所の紹介	徳島ネパール友好協会 副理事長	長尾 正博
来賓あいさつ		
ネパール	駐日ネパール特命全権大使 キング・マントラ・トラスト セクレタリー ブジュン村電化委員会代表 ネパール徳島友好協会会長	ケダール・バクタ・マテマ閣下 ジェイ・プラタップ・ラナ氏 ティルサ・バハドール・グルン氏 ビシュヌ・ゴパール・シュレスタ氏
徳島	徳島県知事代理(生活文化国際総室次長) 徳島市長代理(収入役)	玉有 繁 氏 土橋 信二氏

祝賀会

来賓あいさつ
阿波踊り
万才三唱

ブジュン村に灯がついた (試験点灯成功の瞬間)

少し旧いはなしで恐縮ですが、昨年6月に試験点灯をした時の感動の一瞬をお届けします。

1999年
6月8日午後
1時10分。
A・Capオ
フィスを出発
して20分。
発電所真上の
チョウダリ (石
組みで作られ
た休憩所)
に到着。あと
は一気に石段



を下るだけ。いよいよ発電所間近。「感動ですね！！！！！！」と天野さん一言。

午後1時20分。発電所に到着。調整作業で忙しそうなのですが、シャンガルさん(TNFAの現地代理人)の喜びの声を聞いてみます。「昨日までは送水管に砂が流入する等の問題があって流量が不足して出力が充分でなかったが、今日は、問題なく順調です。破損していた機器もカトマンズからスペアを取り寄せ交換したからOKです。」じゃあ何の問題もないですねと聞くと、「まあまあです。」と、いかにも彼らしい技術的でクールなインタビューでした。

発電所の概要

建物 : 屋根は厚めのトタン、壁は練り石積み(この地方の建物はほとんどそうです。石を使うのが巧みで、屋根も石で葺いてある家がたくさんあります。)木製のドア1カ所、同じく窓3カ所、床はコンクリート土間。

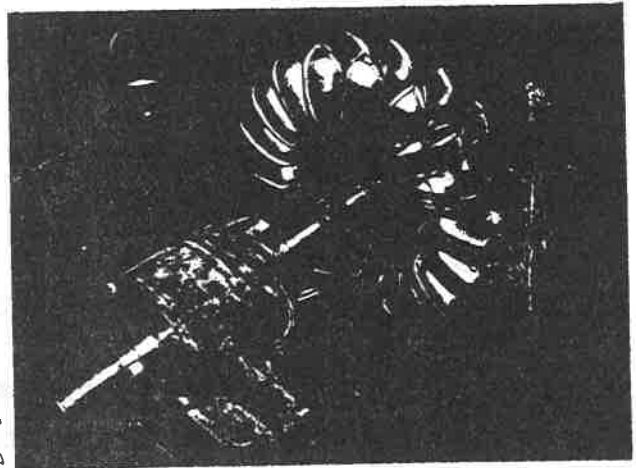
発電装置 : タービン 2JET PELTON H=89MTO、Q=150l/S、PCD=400、N=900RPM、
DT1998.08.09、140IB/IN2、9.8kg/cm2 MADE IN NEPAL
ゼネレーター A.C GENERATOR DT1998.07.30、125KVA、0.8LAG
N=1500RPM、415V、50HZ、174AMPS、PH3 MADE IN INDIA
ベルト 平ベルト T=5mm、W=18cm、MADE IN SWISS

発電施設全体の簡単な説明

ミディムコーラ(村の裾を流れる川の名前)に石組みで作られた小さなダムで水を堰止め、直径約40cmのパイプの中を約2km下流の発電所へ向かって流れ落とします。途中で農業用水用に分水利用し、約100m落下する水の力で水車を廻します。タービン内のペルトン水車はその水の力により、1分間に900回転します。平ベルトによりタービンからゼネレーターに回転運動が伝えられます。その時に回転する部分の径の大きさの差を利用して1500回転に増やされます。1500回転するゼネレーターで作られた400Vの電気は、建物のすぐ横の電柱上のトランスに送られ11,000Vに昇圧されます。

ここから、約400m上にある村まで、アルミの送電線を通して送られ、村の入口に建てられた最終の電柱上のトランスにより220Vに降圧されます。220Vに降圧された電気は、地下ケーブルを通してそれぞれの家庭に送られ明かりを灯します。

午後8時15分。私たちよりはるかに遅く、現場よりシャンガルさんが帰ってきました。ここはA. Capレストラ。大変貴重なビールで乾杯。「本当に嬉しいです！率直に言って嬉しいです！嬉しいですなー！！」と、天野さん何度も何度もシャンガルさんと感激の握手です。



6月9日午後8時20分。村の長老（ティルダ・バハト・グルン氏）宅での点灯記念晩餐会が始まりました。長老「製粉所等をつくって収入を増やしたい。ただラジオやテレビだけじゃなく、収入を増やしていろいろなことをやっていこうと思う。電気をつけてくださった日本人の皆様本当に感謝の気持ちを言わないではいけないし、森の緑を増やしていくことも頑張りたいと思います。』『乾杯乾杯。おめでとうございます。』長老婦人「電気が来て、とっても楽しい、嬉しい。薪を使って煙の中でご飯を作ったり、ダブルコ(?)を作ったりしていたのを、これからは電気を使って、まあ、ダブルコを作ったりできるから嬉しいです。これからは煙の中にいなくても良い。幸せに生きられます。」村長「初めに、日本から来られた皆様に感謝します。今までは煙たくて健康にも悪い石油ランプの下で勉強をしていましたし、充分にはできませんでした。これからは子供達の健康にも良いし、明るいので勉強も良くてできると思ってます。」子供達「言いたいことがたくさんあって、たくさんありすぎて、旨く言えません。」

午後9時10分。ラクシー（ロキシー）ではほろ酔いに、山羊肉料理で満腹に。楽しい会話の時も過ぎ、さあ、あとは飲めや、歌えや、踊れや、の大フィーバーです。レッサンピリーリー、アンナブルナーの大合唱。ネパーリダンスのドンチャ



ン騒ぎ。美声：よしこの：に合わせてのブジュン・徳島電気連の阿波踊り等々、初めて点いた電灯の明かりの下で、ヒマラヤの夜が更けていくのも忘れて、まだまだ宴会たけなわでございます。

(柳沢 充)

スレンドラ・ダンゴール氏からの手紙

とくしまネパールゆうこうきょうかいの皆様へ

ブジュン村のプロゼクトを ぶじにかんせいしたことは
私にとっても自分のことのようにうれしいです。

とくしまのみなさんと ブジュン村をおとずれたことが きのうの
ことのように思い出されます。 本当にかんせいして よかった
です。 とくしまのみなさんがブジュン村をおとずれて
かんせいきねんしきてんを ともどもいわったことは私にとって
じんせいさいだいのよろこびでした。今年3月にとくしまで かんせい
をきねんするパーティーがひらかれたことにたいして 心から
よろこびを申し上げます。私もとくしまでのきねんしきてんに
さんかしたかったんですが 仕事ほかさまざまなつごうで
さんかできなかったことがたいへん申し訳なく思っ
ております。

さんかできなかったことは 私もざんねんでざんねんでたまりません。
ぜひとくしまでとくしまの 私のたいせつな友人たちといっしょに
よろこびのかんげきをあじわいたいです。
ぜひ とくしまネパールゆうこうきょうかいのみなさまのおちから
ぞえで 私にきかいをあたえてくださいますよう よろしく
おねがいたします。

まことに かってですが今年の9月ごろに 2～3週間位の
よていで 訪問したいと思っております。
とにかくよろしくおねがいたします。

私のきぼうがかなえられることになり そちらでの
うけいれてくださることがきまっていただけでしたら また あらためて
ぐたいてきに についていをそうだんいたしたいと思えます。

それでは、みなさまの ごけんこうを カトマンズより
おいのりいたしております。

30 May 2000

スレンドラ ダンゴール

トクシマ・マ・サーガタア (ようこそ・徳島へ)

2000年

○3月 駐日ネパール特命全権大使 ケダル・バクタ・マテマ閣下
キング・マンドラ・トラスト セレクタリー ジェイ・プラタップ・ラナ氏
キング・マンドラ・トラスト セレクティブ プロジェクトマネージャー ガンガ・ジュング・タパ氏
ブジュン村電化委員会代表 ティルサ・バハドール・グルン氏
WWF (世界野生生物基金)ネパール王国代表 Dr. チャンドラ・P・グルン氏
ネパール徳島 (日本) 友好協会会長 ビシュヌ・ゴパル・シュレスタ氏
ネパール徳島 (日本) 友好協会ジョイントリジャラー ビノード・M・シュレスタ氏
ブジュン水力発電所完成式典・祝賀会に招聘するとともに、翌日圓藤徳島県知事等を表敬訪問。

○4月 ミトラ・ラル・シュレスタ氏 (トリブバン大学病院医師)
徳島大学医学部第一外科講座研究員として来徳され、帰国後活躍されている同氏が、職務のため来日、徳島を訪れ旧交を深めました。

○5月 インドラ・マン・タムラカール氏 (ネパールのエンジニアリング・カレッジ 電気工学部助教授)
来徳歓迎会を開催、親睦を深めるとともに、専門分野であるブジュン水力発電所について意見交換しました。

○6月 ディーパック・シュレスタ氏 (グリーントラベル役員など)
ネパールを訪れる度にいつも笑顔でお世話していただける頼りになる友人。このたび、和紙商用のため来日。お忙しい中、2日間だけ来徳。当協会役員と歓談しました。(3回目の徳島訪問)

参考1. ミトラ・ラル・シュレスタ氏とディーパック・シュレスタ氏 (夫婦) は、昨年6月にも徳島を訪れている。

2. 本年は今後

○8月 シャンカール・ラル・バイディア氏 (ブジュン発電所・事業コンサルタント)

○9月 シュレンドラ・ドンゴール氏 (夫婦) (日本語学校教師)

両名の来徳が予定されています。来徳時の歓迎会を希望される方は、事務局までご一報ください。

**** 短信 ****

* ウッタム・ダス・シュレスタ氏（ホテル・マイホーム従業員）を中心に活動している里親活動（PCAID-NEPAL）への支援を呼びかけています。
ネパールの子供達への学資応援をよろしく。

* 外務省 NGO 事業補助金申請中

昨年に引き続き、ブジュン村薬草調査、栽培活動支援事業のために申請しました。
判定は8月です。認められるよう祈っています。

* ブジュン村発電所建設報告書（完成記念誌）（仮称）を、徳島新聞社のご協力で発行することになり、現在同社出版部と打ち合わせを行っています。完成が楽しみです。

* このたび徳島県庁にネパールから獣医さん（氏名未確認）が来徳。約1年間研修活動に入ります。協会としても友人として歓迎したいと思います。（7月28日来徳予定）

◆◆ 事務局だより ◆◆

* 教材、学用品、衣類、ポリタン並びに各種日用品などを、援助物資としてコンテナで搬送することになっています。資金・作業の支援を頂ける方を探しています。
よろしくご協力を！！

* ブジュン水力発電所が完成しましたが、この成果を我々だけのマスターベーションで終わらせてはなりません。第2第3のブジュン誕生への良い方策、支援者、広報活動があればご一報ください。よろしく

* 協会活動にはそれを保証する財源が必要です。

- 1999年度会費が未納の方は、会費納入をよろしくお願いします。
- 会員拡大や、賛助会員への変更をよろしくお願いします。
- 一般会員会費 5,000円 賛助会員会費 10,000円

* 天野理事長が7月10日から坂出税関支署へ転勤になりました。単身赴任なので事務局は現在のままです。充分なお世話ができなくなりましたが、ご協力よろしくお願いたします。

* このたびも「コスト・ラムロNo. 5」の発行が遅れまして申し訳ございません。お許しください。

（文責：天野）